

ややこしい
ややこしい

～バルコニーと
ベランダ～

芳田尚哉

「この前な、あの超有名なホテルのベランダに行ってきたん」

「なんですか、それ」

男の話があまりに唐突過ぎて理解できず、若い男が訊いた。

「せやから、ベランダ行ってきたんや」

男の力説に若い男はため息を吐く。なんの説明にもなっていない。

「とにかくわかりましたけど、なんでそんなところ行ってきたんです？」

「そんなもん、行きたかったから行ってきたんや。文句あるか」

自由すぎる。

「ありません。端的すぎでええですわ」

せやろせやろ、と男は頷く。

「ほんでな、そのベランダから見上げた空がまたええねん。空がな、オサレな壁で切り取られて……」

男は恍惚とした表情で語る。

「なんか似合いませんな」

若い男はついそんな事を口にしてしまった。

「いてまうぞ、こら。なにが似合わへんや。しばいたるか。どつきまわすぞ」

「ちょ、すんませんって。勘弁してくださいよ」

なにが逆鱗だったのか、男のキレっぷりに慌てる。

「まあ、今回は勘弁しといたるか。あの綺麗な景色に免じてな」

男はキマッタとばかりのドヤ顔。

「せやけど、あのホテルにベランダなんかありましたっけ？」

若い男はホテルを思い浮かべて言う。

「お前の目は節穴か。あるやないか。あの遠くからでもわかる豪華なベランダが！」

「遠くからでもわかる？ ああ、あの巨大バルコニーですか」

「それやそれ。そのベランダや」

男はわかってるやないか、と若い男をバシバシ叩く。

「あれはベランダやのうてバルコニーですって」

「ホテルやからって、ちょっと小洒落た言い方せんでもええやんけ。ベランダはベランダや」

「オシャレとかそういうんやありませんって。ベランダとバルコニーは別物ですから」

「はあ？ 一緒やんけ」

「ちやいますって。あそこは屋根がありませんやろ」

「そうやな。それがどないしてん。屋根なんかあったら空見えへんやんけ」

「せやからバルコニーなんですって」

「はあ？ 空が見えるんがバルコニーなんか？」

「そうやのうて、屋根があるのがベランダで、バルコニーには屋根があれへんです」

「なんやそれ」

「なんや言われてもそうなんですって」

「どっちでもええやんけ。ベランダでええやん」

「いやいや、せやから別物ですから」

「ごちゃごちゃ言わんでええやんけ」

「兄さんが適当すぎなんですって」

若い男は大きなため息を吐いた。

F i n o .

ややこしいややこしい～バルコニーとベランダ～

<http://p.booklog.jp/book/110255>

著者：芳田尚哉

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/studiosaix/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/110255>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト